



道 建 労 協

Council of Road Construction Worker's Unions (C.R.U.)

道路建設産業労働組合協議会
〒104 東京都中央区京橋1-19-11
(日本橋道労働組合内)
電話 03 (5622) 5857
発行人 岡田 秀潤 総二
編集人 岡波 圭二

変革への礎がなすたの87春闘

道建労協'87春闘結果

単 組 名	要 求	安		結		35歳
		金 額	率 (%)	年 齢	そ の 他	
大林道路職組	基準内賃金×5.5	11,961円	4.3	組平 35歳 867名	10,630円	
全大有労組	基準内賃金×5.5	10,600円	4.41	組平 38歳 558名	11,300円	
大成道路社組	基準内賃金×2.6 定別(定昇2.8)	4,938円 定昇込	1.64 12.170円	職平 37.2歳 1,350名 (定職込4.05%)	11,800円	
東亜道路労組	15,000円	10,800円	4.37	組平 38歳 1,050名	11,580円	
東京舗装工業社組	基準内賃金×6.3 13,800円	10,200円	4.64	組平 31歳 320名	17,800円	
日本舗道労組	基準内賃金×3.5 定別(定昇2.1)	6,120円 定昇込 12,900円	1.85	組平 41歳 2,516名 (定昇込 3.9%)	11,540円	
不動産設労組	基準内賃金×4.62	6,008円	2.28	組平 34.1歳 63名 (道路部)	7,140円	
前田道路労組	基準内賃金×2.84 定別(定昇2.44)	2,706円 定昇込14,563円	1.0	組平35歳 1,349名 (定昇込4.17%)	19,605円	
三井道路労組	基本給×7.0	11,765円	4.59	社平 37歳 300名	10,400円	

(注) 35歳ポイントの数字は関東地域自宅居住の事務・技術職の手当を含む金額

賃金の調査を行い、おむね妥当と思われる賃金を設定し、これをベースアップの要から回答までの日程をアーンとして設定したことが挙げられ、更なる要求を明示したこと、更に要求を具体的に到達すべきアーンをポイントを三五歳定め次に各組の比較と要求の組ヤカトアーンとしたこと、賃金の調査における基礎は、先ず各単組における基礎賃金、活動が軌道に乗って開到に行われたということ

『連帯の活力 春闘証明』

道建労協における八七春闘は、三月初旬の単組連絡会議で了承された要求基準に沿い、各組で機関決定された要求を一斉に提出することで開始されました。今春闘に臨み当協議会では、「三五歳ポイント要求基準」を示す等各単組間の月別賃金の一層の基礎整備を促す事とし、闘いやすい環境の醸成に努めました。また、我々の共通の願いである労働時間の短縮については、各単組が主体的に「年間休日数の拡大を図る」と取り組み、時短闘争への新しい流れを作ること基本としました。これらを実現、各単組が練り上げた要求はまさに本音の要求であると言えらるものです。これに先立ち、中央執行委員会では第二回の労使事務者懇談会を開催し、道建労協の八七春闘に対する基本的考えについて発表し、労使双方が春闘への共通認識を持つように努めました。これらにより春闘は、世情勢がヘアゼロ回答もある等の厳しい情勢であったにもかかわらず、おむね納得の行く回答勝ち取る事ができ、我々道路建設産業労働者の連帯しての活力であることが証明する結果となりました。

『新時代への適応』

忍耐力からゆとりへ向けて

なり、公共事業の拡大がその柱の一つとして取上げらるために、冬の問題を労働災害と同様に労働時間において、明らかなり、高服していかねばならぬ。また、当面は我々の産を隠れぬに現状を放置する事は許されぬ状況にある。七月二十四日に、京橋会館で開催された道建労協の第二回定期大会、七月二十四日に、京橋会館で開催された道建労協の第二回定期大会は、この市場の成長性過剰競争、労働災害は他産業に比して異常に多く、特に重大な取組方法の検討に加え、急激な円高下において、産業界は二極分化し、不況を克服するに、予断を許さな減を自らした取組みの強化が求められています。諸問題についても議論を行なう重要な場となります。一方、労働時間は短縮と重要な場となります。この取組みが国家的な取組から選出された代議士の皆さんが活発な討議を、既に国会に上運されてい、この大会を盛り上げ、立ち上げ、我々の職場の実態派な運動方針を採択し、は他産業に大きく遅れをとす



山本 清久 山本議長



労働者が、企業という枠を超え、産業の将来を手にすること、これが、我々の究極の目的であり、このき、これを発展させて行くこと、そして対話を通じて、道建労協の綱領を更に発展させることが当面の道建労協の目標の一つです。組合員の皆様、今春闘において最も大きな成果、それは単に賃金のみならず、労働者の連帯こそが、我々の活力を維持すること、忍耐力が互いに相手の意見をからずとも証明したことです。

